

北川敏男 (阪大)

今 函数 $w = f(u_1, u_2, \dots, u_n)$ が, $u_i \in \mathcal{D}_i$ ($i=1, 2, \dots, n$) かつ,
 $(\mathcal{D}_1, \mathcal{D}_2, \dots, \mathcal{D}_n) = \tau$ 定義せし, $u_i^0 \in \mathcal{D}_1, \dots, u_{i-1}^0 \in \mathcal{D}_{i-1}, u_{i+1}^0 \in \mathcal{D}_{i+1},$
 $\dots, u_n^0 \in \mathcal{D}_n$ とし限り 任意, $(u_1^0, u_2^0, \dots, u_{i-1}^0, u_{i+1}^0, \dots, u_n^0) = \tau$ 行
 $f(u_1^0, \dots, u_{i-1}^0, u_i, u_{i+1}^0, \dots, u_n^0)$ の u_i 函数として可逆的 =
 一意連続な寫像 (この topological representation) を T とし
 します, (茲に $i=1, 2, \dots, n$)

この假定は $f(u_1, u_2, \dots, u_n) = (u_1, u_2, \dots, u_n)$ 函数
 として連続ナル。—— この推測は τ 行。筆者, 希望するナルハ
 各 \mathcal{D}_i が n 次元 euclidian space, 領域ナル。各 u_i , w が n
 次元 vector ナル場合ナルが, 元々 τ 条件, τ 行 τ 行 τ 行
 成立スル思ヒマス。證明ヲ思ヒワカサル御方, 本誌ニ御寄稿ヲ
 ンコトヲ 御願ヒマス。

尚, 前號「南雲氏, 或ル種ノ組合ニ函数方程式 = 就テ」;
 題 = τ 行。この推測が何れ聯テナル事ヲ, 茲ニ一言テ置キテ
 思ヒマス。

(七月十六日)